

教育子ども委員会 説明資料

名古屋市歴史文化基本構想(案)について

平成28年12月16日

教育委員会

目 次

	頁
1 策定の趣旨.....	1
2 名古屋市域の文化財.....	2
3 名古屋市域の文化財のとらえ方.....	3
4 地域の文化財の保存活用の方針.....	5
5 今後の予定.....	5

1 策定の趣旨

(1) 趣旨

趣旨	<ul style="list-style-type: none">・国の諮問機関である文化審議会の提言を受け、地域の文化財の保存活用の方針についてまとめ、文化財を未来に伝え、活かしていく指針として策定するもの。
現状	<ul style="list-style-type: none">・身近な文化財の存在が地域に知られておらず、その魅力が埋もれてしまっているため、次世代への継承が困難になっている。・文化財が地域の魅力を増し、地域活動を活性化させるものとして期待されている。
名称	～名古屋市歴史文化基本構想～ 私たちのまちの文化財「知る」「伝える」「活かす」

(注) 文化審議会の提言について

「地域の文化財をその周辺環境も含めて、社会全体で総合的に保存・活用していくためには、地方公共団体が「歴史文化基本構想」を策定していくことの重要性が、平成19年10月に文化審議会文化財分科会企画調査会（平成18年7月21日設置、調査会長：石森秀三北海道大学教授）により提言された。」（『「歴史文化基本構想」策定技術指針』（平成24年2月文化庁文化財部発行）より）

(2) 策定の経過

平成27年8月～ 平成28年11月	歴史文化基本構想策定委員会（全6回）
平成27年9月～ 平成28年2月	市民アンケート（全6回）
平成27年11月～ 平成28年3月	文化財詳細調査
平成28年1月～2月	シンポジウム（全2回）

2 名古屋市域の文化財

(1) 指定文化財

(単位：件)

区 分		国指定	県指定	市指定	合 計
有形 文化財	絵画	17	17	11	45
	彫刻	5	9	5	19
	工芸	41 (1)	40	9	90 (1)
	書跡	51 (4)	18	0	69 (4)
	建造物	11	12	27	50
	考古資料	1	6	3	10
	歴史資料	0	4	4	8
無形 文化財	芸能	0	0	2	2
	工芸技術	0	0	0	0
民俗 文化財	有形	0	0	18	18
	無形	0	2	33	35
記念物	史跡	6 (1)	0	5	11 (1)
	名勝	1	0	1	2
	天然記念物	1	0	3	4
重要伝統的建造物群 保存地区		1	—	—	1
合 計		135 (6)	108	121	364 (6)

(国) 選定保存技術		1
国登録 文化財	建造物	86
	記念物	1

(注) 平成28年12月1日現在。()内の数字は国宝及び特別史跡。

(2) 文化財の詳細調査

- ・ これまでに実施した分野別調査を基に、市内2,786件の文化財について、現況や保全状況を確認。

種別	石造物類	山車	神楽屋形	寺院	神社	屋根神	構造物	合計
件数	762	35	73	1,029	553	261	73	2,786

- ・ 市内全域に文化財が広く分布していることを確認。

(注) 平成27年11月～平成28年3月に実施。

(3) その他の文化財

- ・ 今回、文化財の詳細調査の対象とした文化財の他にも、遺跡約950件、建造物約860件を把握している。
- ・ 今後、美術工芸品や文書・歴史資料などの追加調査の実施により、文化財リストの完成をめざす。

3 名古屋市域の文化財のとらえ方

(1) とらえ方

- ・ 熱田神宮や名古屋城など、「名古屋を代表する文化財」を核としながらも、地域の埋もれている石造物や屋根神などの「身近なまちの文化財」に焦点をあてる。
- ・ 「身近なまちの文化財」を地域的、歴史的、空間的な関係性から6つのエリアに分け、13の「関連文化財群」を抽出することにより、文化財の新たな価値を見いだすことをめざす。

(注) 有形・無形、指定・未指定に関わらず、身近な文化財の歴史的・地域的関連性に基づいた一定のまとまりを「関連文化財群」と呼ぶ。

(2) 関連文化財群

1	名古屋城下 周辺エリア	<p>1-1 名古屋三大祭とゆかりの文化財群</p> <p>1-2 城下に残る焼物文化と繁栄の跡を語る文化財群</p> <p>1-3 名古屋城と城下町に残された見えない文化財群</p> <p>1-4 都市と水に関わる文化財群</p> <p>1-5 大衆文化の中心地、大須・前津とその周辺の文化財群</p>
2	熱田周辺 エリア	2-1 熱田神宮と宮宿の文化財群
3	阿由知瀧・ 鳴海瀧周辺 エリア	<p>3-1 東海道の町並みと祭礼文化に関する文化財群</p> <p>3-2 弥生から現代へ街中に残る戦いの跡を物語る文化財群</p>
4	東部丘陵と 天白川・山 崎川周辺エ リア	<p>4-1 天白川流域・丘陵部の村々の暮らしを語る文化財群</p> <p>4-2 古代窯業生産に関連する文化財群</p>
5	庄内川・矢 田川と周辺 低地エリア	<p>5-1 庄内川を望む古墳とその周辺の文化財群</p> <p>5-2 庄内川治水と中川運河開削に関わる文化財群</p>
6	新田開発・ 干拓エリア	6-1 新田開発のムラと暮らしを語る文化財群

(注) 関連文化財群は、今後、市民参加等により内容を深めるとともに、新たな関連文化財群の追加についても、市民からの意見を得て、取り組んでいくものとする。

4 地域の文化財の保存活用の方針

知る	～地域の文化財を知る 新たな価値の発見・掘り起こし～
	<p>具体的取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人に関連文化財群を周知するため、講演会やウォーキングイベントを開催する。 ・ 小中学生に地域の文化財について普及するため、冊子やリーフレットを作成する。 ・ 地域の文化財について調べられるように、ホームページで情報を発信する。 ・ 地域の文化財の魅力を掘り起こすため、文化財の専門家による調査を行う。
伝える	～地域の文化財を未来へ伝える～
	<p>具体的取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生に地域の文化財の魅力を伝えるため、「土曜学習プログラム」を行う。 ・ 文化財の修理などの保存技術を継承するため、講習会を開催する。 ・ 文化財の所有者が文化財の保存活用に関する技術や情報を共有するためのネットワークづくりを支援する。
活かす	～地域の文化財を活かす 学びから発信へ～
	<p>具体的取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の文化財の魅力を伝える「なごや学マイスター」などの活動を支援する。 ・ 関連文化財群を学ぶパネル展やワークショップを開催し、またSNSを活用して情報を発信する。 ・ 地域の文化財を体感するため、見学会や体験会を開催する。

5 今後の予定

平成29年1月～2月	パブリックコメントの実施
平成29年3月	構想の策定
平成29年度～	講演会・シンポジウムの開催等

